

第5回 大学入試のあり方に関する検討会議

2020年4月14日

齋木 尚子

1. 大学教育について

(1) 個人の可能性を伸ばす = 社会に貢献する者の育成
①問題を解決する上での有用な手段としての教育
②新しい価値そのものの創造を助ける教育
= 「教養ある市民」の育成

(2) 持続可能な開発目標(SDGs) 目標4 = すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

～ 人間の安全保障 = 人間一人ひとりに着目し、人々が恐怖や欠乏から免れ、尊厳をもって生きることができるようにする = 個人の保護と能力強化

(3) 「大学全入時代」をも背景に、大学は多様化している
(文部科学省前回会議配布資料「大学入学者選抜関連基礎資料」72-74、84)

2. 大学入試について

(1) 入試の役割 = 能力と可能性の評価

(2) 「各大学が、それぞれの教育理念に基づき、(中略)ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーを踏まえ定めるアドミッション・ポリシーに基づき、大学への入り口段階で入学者に求める力を多面的・総合的に評価することを役割とする」「能力・意欲・適性等を多面的・総合的に判定する」

(文部科学省前回会議配布資料「大学入学者選抜関連基礎資料」54)

(3) 選抜方法は多様化している
(前掲資料62、65-67)

(4) 高校生は、高校における教育環境のみに身を置いているわけではない

(5) 英語4技能評価及び記述式出題のあり方について

- ～ 受験者の学力の範囲、採点期間、採点基準の明確化・公表、測りたい能力と得点の相関関係、等々の諸点から慎重に検討すべきもの
- 英語4技能について、民間検定スコアを全受験生に求めるような制度設計は、理想的にも技術的にも多くの問題がある
- 記述式出題について、現時点で共通テストに導入することは適当でない

3. 議論をさらに深めてはいかがかと考える論点

(1) 共通テストの位置づけ …… ①身軽にするか

②さらに多様なニーズに応えるものにするか

(文部科学省前回会議配布資料「大学入学者選抜関連基礎資料」56)

(2) 共通テストと個別テストの役割分担 …… 英語4技能評価及び記述式出題に関し、各大学の判断に任せるとする場合、各大学の関連取組を支援・推進するための方途について検討が必要ではないか

- ～ 一般入試のみならず、推薦入試やAO入試も視野に入れることが適当
- ～ 記述式出題に求めるものについて認識は一致していたか。比較的単純なものから高度なものまで様々な記述式問題の意義について改めて整理してはどうか

(3) 公正・公平の担保 …… 全受験生に民間検定スコアを求めることとはしない場合には、いわゆる格差の問題はかなり解消されるが、この場合にも、大学が独自の判断でこれを要求するときの低所得層や試験会場がない地域の受験生について、どのように考えるか検討してはどうか

(4) 様々な「能力」をそれぞれ測ることを可能にする多種多様な選抜方法は、豊かな高校生活につながる

- ～ 最も大切にすべきは、受験生の安心と可能性の実現
「誰一人取り残さない」